

2020年の「教育改革」とは？

■なぜ、教育の改革が必要なのか？

- ・社会の変化①：あと10~20年で、**49%**の職業が機械に取ってかわられる。
- ・社会の変化②：2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの**65%**は、今は存在していない職業に就くだろうと予測される。
- ・社会の変化③：約**1/3**の企業が**外国人**留学生を採用。特に1000人以上の企業では**2社に1社**とその割合は増加する。

⇒このような変化の激しい時代を生きる子どもたちが、社会で活躍できる**能力**を育てる。それが**2020年**の**教育改革**です。

■具体的な改革は？

- ①**新学習指導要領**の実施により学校教育が変わります。
- ②**大学入試共通テスト**の導入により大学入試が変わります。

①学校教育の変化とは？

未来を生きる子どもたちに「**どのような力（資質・能力）を身につけるか**」「**何ができるようになるのか**」まで踏み込んで求める教育へ、と変化します。

【これまで】

「学習したこと（知識・技能）をきちんと理解しているか」を評価することがほとんど。



【これから】

知識や技能の習得だけでなく、それをもとに「**自分で考え、表現し、判断し、それらを実社会で役立てる**」ことが要求される。

★資質・能力を身につけるために「どのように学ぶ」のか？

⇒「**生徒たちの主体的（能動的）な学び**」（≡アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業の展開。

★アクティブ・ラーニングとは？

⇒指導者による一方通行型の授業から「**生徒自身が主体的（能動的）に参加する授業**」へ。

アクティブ・ラーニングの例

- 発見学習
- 問題解決学習
- 体験学習
- グループワーク
- ディベート
- 調査学習
- 教室内的グループディスカッション

★資質・能力を身につけるために「教科・科目」の構成・目標・内容が新しくなる。

・小学生：**3、4年生での「外国語活動」**
5、6年生での「英語」教科化

・高校：**「公共」「歴史総合」「地理総合」「理数探求」**
などの科目を新設

②大学入試の変化とは？

- ・センター試験に代わり「**大学入試共通テスト**」を導入。
- ・「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力」も重視され、**入試選抜に使用する材料が多様化。**

【これまで】

「大学センター試験」

出題形式：マークシート方式

英語：2技能評価（聞く、読む）



【これから】

「大学入学共通テスト」

出題形式：国語・数学で**記述式問題導入**

英語：4技能評価（聞く、読む、話す、書く）

★「記述式問題の導入」

⇒会話文、データ、図など、「**様々な情報を組み合わせて、新しい考え方をまとめて記述する能力が問われる**」

- ・国語：80～120字程度で解答する問題を3問程度。
- ・数学：「数学Ⅰ」の範囲から3問程度。

★「英語の4技能評価」

⇒使える英語を身につけるため、積極的に英語の技能を活用し、
「自分の考えを表現する力」も含めた4技能で評価。

- ・ 2技能：聞く・読む ⇒ 4技能：聞く、読む、書く、話す
- ・ 民間資格・検定試験を活用

★「多面的・総合的評価」

⇒個別試験や私立大学試験については整理・区分されて、
「多面的な能力や適性を評価する」試験へ。

- ・ 総合型選抜（現AO入試）、学校推薦型選抜（現推薦入試）
「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の適切な評価のため、各大学が定めて実施する評価方法もしくは「大学入試共通テスト」のいずれかの活用が必須。
- ・ 一般選抜
筆記試験以外に、調査書・本人が記載する学習記録、学習成果などを積極的に加えて評価する。